



きらきら Eyeランド
JA庄内みどり

安全・安心をお届けします。

令和3年3月10日

グリーンプロジェクト情報 第2号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

春は重要な作業が続きます！ 春作業事故防止に留意し、最高のスタートを！

令和3年産米の春作業スタートまであとわずかとなりました。今後の気象経過に十分留意し、焦らず作業ができるようにしましょう。また、手順や使用する機器・容器を事前にしっかり確認し、重要なポイントを押さえて健苗づくりに努めましょう。

技、其の一 春作業の目安

◎春作業の目安※下表を参考に作業計画を立てましょう。

浸種期間・育苗期間はしっかり確保し、かつ余裕を取り過ぎないように留意しましょう。

月日	3月 26	4月 8～	10～15	19～24	5月 8～13
作業	浸種	催芽	播種	温度管理・水管理	田植え
	緑化期		マルチ除去	硬化期	

技、其の二 種子消毒は確実にいきましょう！

薬剤消毒法	使用薬剤	濃度	処理法
低濃度長時間 処理法	(推奨) テクリートCフロアブル ※苗立枯細菌病にも有効	200倍 (50cc/10ℓ)	24時間浸漬、その後浸種。 ただし、前年「ばか苗」が発生した場合は、2～3日陰干しし、その後浸種する。
湿粉衣法	ベンレート水和剤 20	乾燥籾重の 0.5%	種子粉衣後、2～3日間ひろげて陰干しする。その後、浸種する。

注意事項

- ①種子消毒時の水温は、10～15℃未満であることを確認する。
 - ②浸漬処理の場合、希釈した薬液は乾燥籾重の約2倍の容量を準備する。
 - ③浸漬する場合は、催芽袋を良く揺すり中までしっかり薬液に浸かるようにする。
 - ④使用後の廃液は、周辺環境に影響を及ぼさないよう適切に処理する。
- ※ばか苗対策の詳細については、GP情報第1号(2月10日発行)をご参照ください。

技、其の三 浸種初日の水温と積算温度が重要！！

品種名	積算温度(目安)	浸種日数(目安)
はえぬき・ひとめぼれ・つや姫 雪若丸・ふくひびき	120℃	水温10℃で 12日間

- ①浸種は水温10～15℃未満を確保できるように3/26頃から開始しましょう。
- ②浸種開始初日の低水温は発芽率が低下します。
(お湯を加えるなどし、水温10～15℃未満を確保してから行う)
- ③浸種桶には、必ず温度計を設置し水温を測って、確実に積算温度を確保する。
- ④浸種時の水量は、種子量に対し薬剤消毒で2倍、温湯消毒で3倍以上とする。
- ⑤薬剤消毒種子の場合、薬剤効果安定の為、浸け始めから3日間は水を替えない。
その後は、2～3日おきに水の交換を行う。
- ⑥温湯消毒した種籾は、必ず別の容器を準備し区別して浸種する。
- ⑦水交換の時には、種籾の位置・上下交換も行う。

※浸種時に活水(100倍液)を使用すると発芽状況が良好となります。但し、発芽阻害物質除去後の使用とし、使用時期は浸種始めから4日目以降が目安です。

また、催芽時にも活水(100倍液)を使用することでより発芽が促進されます。

※千粒重が大きい「雪若丸」「ふくひびき」は、浸種時に活水を使用し、積算温度で120℃を確保する。

技、其の四 育苗培土・育苗マットの使用は適切に！

①購入培土を使用する場合

透水性・通気性が高すぎる場合は、下表の資材を混合するなどして保水性・保肥力を改善する。混合後は必ずpHを測定してから使用する。pHの測定は最寄りの営農課にご依頼下さい。

推奨資材

資材名	容量	pH	参考価格(税込)	1㎡当たり価格
ピートモス(カナダ)	107ℓ	4.5	3,267円	30.5円
水稻育苗用V床土	45ℓ	5.0	2,145円	47.7円

②育苗マットを使用する場合

1. マットには裏表があるので、育苗箱に入れる時は必ず確認する。
 2. 播種時(前)はマットにたっぷり灌水する。(箱当たり約2ℓが目安)
「水切れ」や「水不足による高温障害」に注意して下さい。
 3. 覆土(覆土用、肥料入等)は、粗い粒状のものを使用し、1.2～1.4kg程度(覆土をかけすぎない)を目安に均一にして、出芽不良を防止する。
 4. 過湿・低温にならないように育苗期間中の灌水はひかえめにする。
(育苗箱を傾けて水が浸み出るときには、灌水しない)
- (裏面へ続く)

5.カビ・根張り対策として、播種後14日以内にダコレート水和剤500倍液を箱当たり500cc灌注する。(特別栽培米には使用出来ません)

③水田の土を使用する場合

表土を削り、作土層を床土として使用する。(深すぎて、耕盤まで掘り取らないように要注意)過度に乾燥させてしまうと、**碎土のとき土が細くなりすぎ**、酸素欠乏など障害を引き起こす事があるので、乾燥程度には特に留意が必要。また使用前にpH(4.8~5.2)を必ず確認する。

床土改良のポイント

粘土系土壌は透水性の改善、砂壤土系土壌の場合は保水性改善のためピートモス(カナダ)を40~50g/箱を混合する。

技、其の五 床土消毒、肥料混和は播種7日前から!

①育苗基肥(1箱床土量 約3.3kg)

施肥例①	サイコー11号:12g/箱	追肥は2回程度必要
施肥例②	サイコー11号:8g/箱 + エコロング413M100:50g/箱	追肥は不要
施肥例③	稚苗用ロング313:60g/箱 (育苗一発稚苗用)	追肥は不要
施肥例④	こめパワーマット・エースマット (育苗専用マット)	追肥は2回程度必要

②床土消毒(苗立枯病の予防・ムレ苗予防)

床土に水田の土を使用する場合は、上記の肥料を混合し下記の薬剤を同時混和する。
タチガレン粉剤(4~6g/箱)またはタチガレエースM粉剤(6~8g/箱)

◆注意事項

特別栽培米は、決められた薬剤しか使用できないため、必ず確認してから使用して下さい。※不明な場合は各営農指導員へご相談ください。

技、其の六 正確な温度でハト胸催芽を!

☆上手な催芽は健苗づくりの基本

- ①催芽温度は30~32℃とし、催芽の程度はハト胸状態とする。
- ②品種や、浸種状況によって催芽完了までに要する時間が異なるので、随時、袋の中まで芽の状況を確認し、90%以上の揃った芽切れで仕上げるようにする。
- ③ハトムネ催芽機を使用の場合も、機械を過信せず温度計を設置し適宜温度を確認する。



技、其の七 適正な播種量で健康な苗作り!

☆播種量の基準

	移植葉齢	育苗日数	乾籾重	催芽籾重	催芽籾量
稚苗	2.2~2.5	22~25	150~170g	180~200g	1.6~1.8合
中苗	3.2~3.5	30~35	100~130g	120~160g	1.1~1.4合

「雪若丸」は千粒重が大きいので、従来より播種量を1割程度多く播種します。事前に播種量を確認してから播種作業を行ってください。

技、其の八 置床の準備

- ①ハウス内・トンネルの置床は整地を行い、できるだけ均平にする。排水が悪い場合は、周辺に排水溝を掘る。(箱の下に薄い板、塩ビのパイプ等を敷いて対策をする。)
- ②昨年「ばか苗病」が発生した場合は、マルチや有孔ポリは再利用せず新調する。
- ③育苗施設周辺では、生わら、籾殻は使用しない。
- ④ケラの予防対策として、**育苗置き床に使用できる登録農薬はありません。**波板などの設置による侵入防止策、有孔ポリを敷くなどの対策を行うようにして下さい。

特別栽培米に取り組む方へ

早い地区で温湯消毒作業が始まりました。その後の作業・管理について**下記の注意事項を厳守して下さい。**(ばか苗病等の発生予防対策としても重要な事項です)

- ①温湯消毒をした種子と、テクリードCフロアブル等による薬剤消毒をした種子とは、**完全に区別し、別々の容器で浸種して下さい。**(催芽も同様に対応して下さい)
- ②温湯消毒後の種子は引き取り後、**直ちに浸種するか、すぐに浸種しない場合は、日陰で十分乾燥させて風通しのよい冷暗所で保管して下さい。**
- ③育苗箱に明確な目印などをつけて、区別して播種作業を行って下さい。
- ④育苗期の殺菌剤等については、地域ごとに定められておりますので、指定された農薬以外は使用しないよう注意して下さい。

農薬の飛散(ドリフト)防止対策!

毎年のように除草剤のドリフトが起因と思われる事故が発生しています。風の強い日に除草剤を散布し、枝豆に飛散したなどの事例があります。**損害賠償などに発展することもありますので、十分留意して作業にあたりましょう。**



健苗を栽植密度70株/坪で!

- 活着(発根)しやすい葉齢は稚苗で2.2~2.5葉です。老化苗の移植を防止しましょう。
- 早めの有効茎数確保が重要です。70株/坪、4~5(本/株)植えを徹底し、初期の分けつを促しましょう!
- 土壌pHの低下が確認されています。土壌改良資材を積極的に投入しましょう。



適正な播種量で箱当たりの本数を確保!

- 「雪若丸」は、千粒重が大きいので播種の重量を多くしないと、播種粒数が少なくなります。乾籾で180g/箱を目安に播種作業を行いましょう。
- 出芽不良を防止するため、浸種の積算温度は120℃を確保しましょう。

★次号の発行は4月12日です!